

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のひとつである地域の笑顔を実現することである。施設の方針としては、周辺地域の住民の方にも憩いの場として位置づけられるように、積極的に地域の行事に参加している。	○	現在は地域の行事にお客様として参加している。今後は、お客様ではなく各行事に屋台等の出店についても現在、検討し調整中である。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に法人理念および施設方針について説明、指導を行っている。施設理念については、各フロアに掲示し徹底している。毎年度4月に全職員研修としてスタッフに対して講義を実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様については、契約時およびケアプランの更新時に理念について説明している。施設主催のイベント開催で、グループホームを地域に開放することや、区のボランティア養成講座等開催を手伝うことを通して、地域住民に理念を知っていただく機会を提供している。	○	鷹合会館を利用し、ご利用者様と地域の高齢者の方との交流の場を設定していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板のネットワークに加入し、回覧板の配達時には声を掛けている。施設前の掃除を定期的に行っている。イベント開催時、近くの飲食店などに開催の主旨などを説明し理解を得た上で、ポスターの掲示などの協力いただいている。また、月1回、親子サークルへフロア開放。食育、子育てを支援。ご利用者様も地域で「与える喜び」を感じていただいている。	○	日曜日に施設の1階を開放し、地域の皆様に利用していただけるようにイベント・講習会を開催していきたい。上記のイベント開催の為親子サークルへのフロア開放、年1回の記念行事にも参加していただき、スタッフと施設の経験を積み重ねている。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鷹合会館等のふれあい喫茶等に参加する。鷹合神社の夏祭りに参加する。地域の小学校におけるイベントに参加している。地域の中学生のボランティアの受入を行っている。町会に参加し、町会におけるイベントにも積極的に参加している。	○	今後は教育機関等と連携をとり、学校帰りに施設に立ち寄ってもらえるように情報の共有、お互いの立場の理解、調整を行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区のボランティア養成講座開催のお手伝いをし、活動場所の提供などを行った。他に2ヶ月に1回程度でも介護予防の講習会などを開催したいと思っていたが実施できていない。	○	2ヶ月に1回程度でも介護予防の講習会などを開催したいと思っている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設内にて第三者評価の研修を行ない、各スタッフに実際の自己評価シートを使いながら講義を行っている。法人内にて第三者評価の一環として各施設での第三者評価を実施している。	○	法人内の第三者評価の実施の継続を行ない、指摘された点についての改善を行っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議にて検討した議題についての経過報告を実施している。施設からのイベントの案内や講習会についての情報発信を実施している。	○	運営推進会議で提案されたことを実施している。(施設内掲示板など)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区包括支援センター職員、あんしんサポート職員の訪問の際には、他施設情報を聞き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修のなかで成年後見人等の制度について管理者が講師となり、研修を行っている。ご家族様と調整し成年後見人制度の利用をされたご利用者様がおられる。	○	今後も必要な方には成年後見人制度の申請および開始について積極的な支援を行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について施設内での研修を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にしっかりと施設見学をしていただき、その際に施設の理念や施設の方針をしっかりと説明してから、時間をかけて対応している。入居後1ヶ月程度で面会にこられた際に相談する機会を設定している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価の結果を施設内に掲示し、意見をだしていただけるように環境づくりをしている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	運営推進会議や月1回の請求書送付の際に施設たよりを同封するなど定期的に情報発信を行っている。ご利用者様の近況報告については随時対応している。ケアプラン作成時には、電話、書面等で情報の交換を行っている。面会に来られた際にはフロアにあるアルバムを見ていただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてスタッフを除いた時間を取り、話し合いをしていただいている。ご家族様のクレームに対しては、施設スタッフ全体で対応し予防策を講じている。	○  ご利用者様との忘年会の実施の際にご家族様への参加を積極的に行い、その際に家族同士の交流を持っていただく。イベントの際にご家族様同士の交流を持てるようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフに対しては、6ヶ月ごとにミーティングを業務中に行い、現在の仕事状況等についての確認を行なっている。随時スタッフとコミュニケーションをとるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等があれば、スタッフの人員を多く確保するなど柔軟に対応している。事前に次月の行事の予定があれば、それに対応した勤務を作成している。	

項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者、ご家族様との信頼関係を築いていくために固定したスタッフでの対応を目指している。スタッフの異動や退職については、引継ぎに余裕があるように人員配置を行なえるように努めている。新人スタッフについては、ご利用者様の状況をしっかりと把握してもらうように努めている。	現在、初出勤の際には、ご利用者様の前でスタッフを知っていただくという意味で、自己紹介を行なうようにしている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部の研修にも積極的に参加できるような体制を整備し、施設内研修会についても外部の講師を招き月1回実施している。研修報告書については、研修ファイルを設置し常時閲覧できるようにしている。	現在は新人役職者研修、役職者研修を外部講師を招いて行っている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	大阪市グループホームネットワークに加入している。東住吉区内のグループホーム連絡会を発足し、活動を行っている。スタッフに対しての東住吉区内グループホームの見学会を行なう。管理者同士の定期会議も実施している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	各スタッフに誕生日にメッセージカードおよびお祝いを渡している。月1回施設に来られており、その際に直接声をかけるなどコミュニケーションをとっている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	勤務状況等については、常に把握し、各スタッフに自己向上のキッカケづくりとして外部研修・内部研修に参加できるように環境づくりを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけている。その後、しっかりと時間をとりご利用者様の話を聞き、不安を解消していくようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけている。その後、しっかりと時間をとりご家族様の話を聞き、契約・金額面・医療面についての不安を解消していくようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であるが、すぐに入居できない場合等については、デイサービスの利用やホームヘルパー等の利用についても説明を行なっている。サービスを初めて利用される場合は利用に関する手続きを説明している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在はすぐに入居してサービスを利用していただいていますので、入居前にご利用者様、ご家族様と密接に情報交換を行い、現場スタッフへの情報提供を早期に行い、ご利用者様の状態の確認を行なっている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	協働の意識を持ち、ご利用者様と日々を楽しみながら生活していくことを心がけている。掃除や洗濯などを一緒に行なうことで共通の目的を達成していけるように共同で生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日企画である個別外出では、しっかりとご家族様の情報交換を行い、過去の外出先等を加味した上で検討している。面会にこられた場合は、スタッフとご利用者様、ご家族様で少しでも話す時間をとれるように声かけを行なっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来られた際には、ご利用者様、ご家族様、スタッフと三者で話をしたり、近況の報告をしている。ご家族様との外出も外出時に不安がないように必要物品の準備、説明を行い安心して過ごせるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で生活されていた場合は、普段の日常で経験されていた場所に外出するなど支援を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性については、常に意識してケアを行い、スタッフが関わることで良好な人間関係を保てるよう努力している。問題が発生した場合は臨機応変に座席の変更等を行ない対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、サービス終了したご利用者様とご家族様との継続的な関わりを持つという事例は発生していない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご利用者様の表情や言動等から思いや希望の把握を行い、外出やレクリエーションの参加等につなげていくようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様およびご家族様から積極的に情報収集を行なっている。毎年新しい情報を追加・更新を行なっている。ケース記録に保管し、随時確認できるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後1ヶ月間は重点的に観察、見守りを行い、現時点での状況をコミュニケーション、日常生活を通じて把握するようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様の意見については、普段の会話から汲み取り、ご家族様については面会時に話をしている。その結果を月1回のケア会議で検討し、ケアプランに反映させるようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新しい課題が発生した際には、スタッフ、計画作成担当者とミーティングを行なっている。更新の際には、更新日前に家族連絡を行とり、意見の聴取を行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳しく記入し、ケース記録として誰でも閲覧することができるようにしっかりと記録している。記録を元にケアプランの変更を行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者様の状況の変化により随時協力医療機関以外にも受診を行なっている。家族様不在時などについては、スタッフによる受診付き添いも行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様の好きなレクリエーションのボランティアの募集を行なっている。教育機関に関しては、互いに情報の共有をできるように活動をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、ご利用者様の希望必要性がない為、他のサービス利用についての支援を行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただき、情報の提供を受けて活動している。運営推進会議録についても常時閲覧できるように事務所に設置している。施設側からの情報発信については、地域包括支援センターでの協力をお願いしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医による訪問診療を行っている。嘱託医以外の受診についても、ご利用者様の必要に応じて、ご家族様と連絡を行ない通院介助を行っている。複数の医療機関を受診できるような環境づくりをしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在実施していない。	○	今後については、医師や医療機関と調整を実施していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関のクリニックによる定期健康診断および排泄のコントロールについても適時連絡、指示を仰いでいる。また、週1回の訪問をしてもらい、日常の健康管理をしてもらっている。また、併設されているデイサービスの看護師にも随時状況の確認を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院される場合は、ご家族様から了承が得た場合は、診療の方針等について説明を受けている。定期的に病室に訪れ、看護師、ご家族様と情報の交換を行う。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、原則として特別養護老人ホームに入所申し込みすることを説明している。重度のご利用者様については、随時他の施設への移動などを家族と検討して対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームの浴室状況や食事内容に関してできること、出来ないこと（機械浴がない。トロミ食などの対応が出来ない）を家族様に伝え、基本的に要介護4になると特養への入所申込を勧めている。ホームとしては次の場所が決まるまでは、ホーム内でできることを伝え、対応することになっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	特別養護老人ホームへ入居された場合は、ご家族様の同意のもとご利用者様のケアに関する情報交換を行っている。住み替えによるダメージの軽減に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	法人の理念にあるようにご利用者様の笑顔を大事にした声かけを行っている。記録等については、スタッフルームにて管理している。日中は常時施錠することで対応している。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	ゆっくりと時間をかけてご利用者様とコミュニケーションを行ない、ご利用者様が落ち着ける環境になるように支援している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本プログラムがあるも、ご利用者様の起床時の状況に合わせてプログラムを変更している。外出の頻度についてもできるだけご利用者様の希望に添えるように実施している。	
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	家族様が今まで行っていた美容室に連れて行かれる方や特にご利用者様からの指定の美容室がないので訪問美容にて対応している方などがおられる。内容（カットやパーマなど）については本人に確認しながら行ってもらっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお持ちのご利用者様については、買い物の際にはご自身で払って頂く様にしている。現金を持つ意味については、ケース会議等で検討している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があった場合はできるだけ対応するようにしている。午後にその希望のあるご利用者様を外出して頂く様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日企画として、職員とのマンツーマンでの外出を企画している。その際には、心齋橋、百貨店等ご家族様から生活歴等の情報収集を行ない計画、実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、月1回の絵手紙教室での作品をご家族様に郵送するように実施している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	事前に面会の予定がある場合には、1階相談室を利用していただくなど個別のケースにも対応できるように工夫している。フロア内に来られた際には、居室にて飲み物の提供等を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行ない、理解する機会を設定している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一人ひとり抑制の意味を理解し、日中、エレベーター前の施錠を行わないようにしている。居室に関しても、必要性のある方（他の方が居室に入ることを嫌がる方）の居室以外は、カギをかけないようにしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室にて過ごされるご利用者様に対しては、飲み物の提供時に確認している。夜間については、3時間ごとに巡回を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リビング等フロア内の危険物に関しては、ケース会議等で検討し、対応策を検討している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応マニュアルを策定し、急変時の資料についても準備している。研修で対応を学んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員研修などで定期的に緊急時、事故発生についての対応のRPGを実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力得て避難訓練を実施している。施設内での避難訓練を定期的実施している。夜間の出火についての想定での避難訓練を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランの更新時、面会時に現状を報告しながら、起こりうる身体・精神面での変化について報告をしている。面会が困難な場合は電話連絡にてご家族様の要望を確認している。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日勤帯、夜間帯問わず体調の変化があれば、迅速に外部受診を行ない、受診後の対応を徹底している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各ケース記録に綴るなどスタッフがいつでも閲覧できるように整備している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中のプログラムや散歩レクリエーションを通して身体を動かしていただける機会を多く設定している。食事面でもヨーグルトなどの提供を行っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後は口腔洗浄液を使用し、夜間は義歯の方には消毒、歯磨きなどの援助を利用者様ごとに行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量および水分量のチェックをしている。定期的に管理栄養士に対してメニューの確認を依頼し、意見を聴取している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症に対して、予防策および対応策をマニュアルを作成し、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間に調理用具の消毒を行ない、定期的に冷蔵庫の清掃を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を置く等親しみやすい雰囲気を作っている。また、運営推進会議で施設内掲示板の設置の案が出てから、すぐに掲示板を設置し、情報の発信をするようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の状況に合わせて机やソファの配置を換えたりして落ち着けるスペースになるようにしている。ベランダでは花をかけるなど雰囲気作りを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの机やソファの配置を検討し、対応している。自然にご利用者様同士が座席に座っていただけるように心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 んだり、活動できるように活かしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少人数での外出レクリエーションの実施を積極的に取り組んでいる。誕生日の個別外出等できるだけご利用様とともに生活しているとの意識を持ちながらケアに取り組んでいる。地域へのフロア開放への第一歩として食育サークルへのフロア開放を行うなど、段階的に地域の方へ施設を利用してもらえるように準備を行っている。玄関前の掲示板設置など施設の前を通られる方にも施設の内容を知っていただくようにしている。スタッフはご利用様の精神的な安定を実現するためにご利用様にあった対応を月1回の検討会で検討し実践している。